

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月14日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)
【会社名】	株式会社サンドラッグ
【英訳名】	SUNDRUG CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 才津達郎
【本店の所在の場所】	東京都府中市若松町一丁目38番地の1
【電話番号】	042(369)6211(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 赤尾主哉
【最寄りの連絡場所】	東京都府中市若松町一丁目38番地の1
【電話番号】	042(369)6211(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 赤尾主哉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第3四半期 連結累計期間	第49期 第3四半期 連結累計期間	第48期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	271,276	292,249	360,655
経常利益	(百万円)	14,636	16,729	19,801
四半期(当期)純利益	(百万円)	7,725	9,131	10,871
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	7,709	9,115	10,853
純資産額	(百万円)	75,098	85,091	78,242
総資産額	(百万円)	140,746	152,820	140,009
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	122.58	144.90	172.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	53.4	55.7	55.9

回次		第48期 第3四半期 連結会計期間	第49期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	48.34	47.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第48期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の落ち込みから若干持ち直しの動きが見られましたが、欧州財政危機問題、タイの洪水被害そして急激な円高の進行などで、先行き不透明感が強まり厳しい状況で推移しました。個人消費におきましても、復興需要や防災対策・節電関連商品需要などが好調に推移したものの、消費マインドは低調に推移しました。

ドラッグストア業界におきましては、同業他社による積極的な出店や価格競争に加え、他業種からの参入も徐々に増加し、更に厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き、「安心・信頼・便利の提供」をキーワードに、お客様のニーズに応える質の高い出店やサービスレベルの向上、更にシステム統合によるグループ会社間の情報の共有化、そしてグループ内の物流効率化を進めるとともに、新業態の開発や積極的な店舗改装などに取り組み、活性化を図ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの新規出店は、直営店で21店舗、子会社の㈱星光堂薬局で2店舗、同じく子会社のダイレックス㈱で12店舗の合計35店舗を開設し、既存店におきましては、直営店で1店舗、ダイレックス㈱で3店舗のスクラップ&ビルドを実施したほか、直営店で2店舗、㈱星光堂薬局で1店舗、㈱サンドラッグファーマシーズで1店舗、ダイレックス㈱で2店舗を閉店いたしました。更に直営店で30店舗、ダイレックス㈱で27店舗の店舗改装を実施し活性化を図りました。また、フランチャイズ店につきましては、5店舗の新規契約を締結いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高2,922億49百万円（前年同期比7.7%増）、連結営業利益163億17百万円（同14.7%増）、連結経常利益167億29百万円（同14.3%増）、連結四半期純利益91億31百万円（同18.2%増）となり増収・増益となりました。

セグメント業績の概要は次のとおりであります。

<ドラッグストア事業>

ドラッグストア事業は、震災及び原発事故の影響などにより高単価の化粧品等は苦戦したものの、電力不足による節電対策関連品や季節品等の販売が好調に推移し、既存店売上高が前年を上回り、粗利益の改善を図るとともに、節電による光熱費の圧縮など経費の削減に努めた結果、売上高2,277億52百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益140億92百万円（同14.1%増）となり増収・増益となりました。

<ディスカウントストア事業>

ディスカウントストア事業は、震災の影響により、一時的に商品の品薄の影響を受けましたが、ドラッグストア事業同様、節電対策関連品や季節品等が好調に推移したことに加え、引き続き戦略的に店舗改装を実施し、大型家電の縮小や医薬品の導入による粗利益の改善を図るとともに、販促等の見直しを行った結果、売上高787億86百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益22億25百万円（同19.1%増）となり増収・増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ128億11百万円増加し、1,528億20百万円となりました。主な要因は、店舗数の増加による商品及び有形固定資産の増加等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ59億62百万円増加し、677億29百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ68億48百万円増加し、850億91百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は0.2ポイント減少し55.7%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	268,000,000
計	268,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	67,165,592	67,165,592	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	67,165,592	67,165,592		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	67,165,592	-	3,931	-	7,409

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,142,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,017,100	630,171	
単元未満株式	普通株式 6,292		
発行済株式総数	67,165,592		
総株主の議決権		630,171	

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社サンドラッグ	東京都府中市若松町一丁目38番地の1	4,142,200		4,142,200	6.17
計		4,142,200		4,142,200	6.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,094	24,285
売掛金	7,143	6,958
商品	41,953	49,071
原材料及び貯蔵品	65	58
その他	12,493	11,809
貸倒引当金	9	9
流動資産合計	80,742	92,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,879	19,754
その他（純額）	11,953	12,082
有形固定資産合計	29,833	31,837
無形固定資産		
のれん	1,762	1,369
その他	4,090	4,028
無形固定資産合計	5,853	5,397
投資その他の資産		
敷金及び保証金	13,673	13,949
その他	9,911	9,754
貸倒引当金	3	290
投資その他の資産合計	23,580	23,412
固定資産合計	59,267	60,647
資産合計	140,009	152,820

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	36,689	45,898
短期借入金	3,387	3,377
未払法人税等	4,364	3,328
役員賞与引当金	-	62
ポイント引当金	1,420	1,915
その他	7,232	6,936
流動負債合計	53,093	61,518
固定負債		
長期借入金	4,083	1,553
退職給付引当金	655	737
役員退職慰労引当金	232	248
資産除去債務	1,632	1,824
その他	2,069	1,847
固定負債合計	8,673	6,210
負債合計	61,766	67,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,931	3,931
資本剰余金	7,409	7,409
利益剰余金	73,748	80,611
自己株式	3,601	3,602
株主資本合計	81,486	88,349
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	5
土地再評価差額金	3,266	3,263
その他の包括利益累計額合計	3,243	3,257
純資産合計	78,242	85,091
負債純資産合計	140,009	152,820

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	271,276	292,249
売上原価	210,330	225,431
売上総利益	60,945	66,817
販売費及び一般管理費	46,720	50,499
営業利益	14,225	16,317
営業外収益		
受取利息	72	75
受取配当金	11	7
固定資産受贈益	172	256
受取手数料	106	40
その他	86	56
営業外収益合計	449	435
営業外費用		
支払利息	33	21
その他	5	2
営業外費用合計	38	23
経常利益	14,636	16,729
特別利益		
違約金収入	14	16
子会社清算益	34	-
受取保険金	-	38
退職給付制度終了益	-	35
その他	2	1
特別利益合計	52	91
特別損失		
固定資産除却損	40	77
賃貸借契約解約損	27	66
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	623	-
減損損失	152	62
災害による損失	-	54
その他	29	47
特別損失合計	873	309
税金等調整前四半期純利益	13,815	16,512
法人税等	6,089	7,380
少数株主損益調整前四半期純利益	7,725	9,131
四半期純利益	7,725	9,131

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,725	9,131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	16
その他の包括利益合計	16	16
四半期包括利益	7,709	9,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,709	9,115
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
税金費用の計算	当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	
(退職給付引当金) 当社及び当社の連結子会社である株式会社サンドラッグファーマシーズは、平成23年4月1日付で適格退職年金制度を廃止し、確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行しております。この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。 なお、本移行により、特別利益(退職給付制度終了益)として35百万円計上しております。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
減価償却費	2,667百万円	3,179百万円
のれんの償却額	356百万円	360百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月26日 定時株主総会	普通株式	945	15	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金
平成22年11月10日 取締役会	普通株式	1,008	16	平成22年9月30日	平成22年12月14日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,134	18	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	1,134	18	平成23年9月30日	平成23年12月14日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	199,671	71,605	271,276		271,276
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,741	168	9,909	9,909	
計	209,412	71,773	281,186	9,909	271,276
セグメント利益	12,351	1,868	14,220	5	14,225

(注)1.セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	213,487	78,761	292,249	-	292,249
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,264	25	14,289	14,289	-
計	227,752	78,786	306,538	14,289	292,249
セグメント利益	14,092	2,225	16,317	0	16,317

(注)1.セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	122円58銭	144円90銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	7,725	9,131
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	7,725	9,131
普通株式の期中平均株式数(千株)	63,023	63,023

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成23年11月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・ 1,134百万円
 - (ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・ 18円00銭
 - (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・ 平成23年12月14日
- (注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行っております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 2月14日

株式会社サンドラッグ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 海 野 隆 善 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯 塚 正 貴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンドラッグの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サンドラッグ及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。